



〈特集：特別講演・ワークショップ（第33回年次学術集会より）〉

序文 (巻頭言) : 「特別講演・ワークショップ」

外園 栄作

Preface: Special lecture & Workshop

Eisaku Hokazono

Summary This special feature summarizes the contents of two special lectures and one workshop at the 33rd Congress (Meeting Chairman: Hironori Ikeda). The slogan of the congress is "New developments in clinical laboratories - looking towards the after-corona era", and it is important in the future how the "many experiences" and "awareness" gained from the global pandemic caused by COVID-19 in the medical and laboratory fields and society as a whole can be communicated, connected and disseminated. I trust that the content covered in each lecture discussed in this report will afford us the opportunity to analyze and perceptively comprehend the occurrences before us. This requires a thorough analysis and insight into these phenomena, identifying necessary actions for the next steps and considering their impact on daily life

Key words: COVID-19, Global pandemic, After-corona era, Regional promotion industry

第33回生物試料分析科学会年次学術集会（集会長 池田 弘典）は、COVID-19による世界的なパンデミックが、医療・検査領域そして社会全体にもたらした「多くの経験」とそこから得た「気づき」を今後、どのような形で発信し、伝え繋げていくかを考える起点となることを期待し、「臨床検査の新たな展開 - after コロナ時代を見据えて -」をメインテーマに掲げ開催された。本稿では、本大会における2題の特別講演とワークショップの一部の内容を特集する。

まず、特別講演Ⅰとして鹿児島大学病院 感染制御部の川村英樹先生に「COVID-19感染症の感染制御 アウトブレイクの経験」と題してご講演いただいた。本稿では、鹿児島県内におけるCOVID-19感染症に対する外来・医療検査

体制の構築からクラスターを想定した対応など、離島を含め地域全体での組織的な感染予防体制の運営構築の重要性について、体験を踏まえたご講演内容を執筆いただいた。そして、特別講演Ⅱでは、佐賀県庁政策部の円城寺雄介先生に「アフターコロナ時代における臨床検査の未来を考える」と題して、先人の教えや周囲の人々の声に耳を傾け、諸事立ちはだかる難題を如何にして解決すべきか、医療行政の最前線で挑戦と実践を行ってきたご自身の経験をもとに様々な視点からの取り組みをご紹介いただいた。そして、その経験による「新しい気づき」の大切さ、来るであろう宇宙時代を見据えた「未来の医療・検査のあり方への問い」など非常にダイナミックな内容でまとめていただいた。

九州大学大学院 医学研究院 保健学部門
〒812-8582 福岡県福岡市馬出3-1-1

Department of Health Sciences, Graduate School of
Medicine, Kyushu University
Maidashi 3-1-1, Higashi-ku, Fukuoka, 812-8582, Japan

連絡先：外園 栄作
Tel: +81-92-642-6737

E-mail: hokazono.eisaku.725@m.kyushu-u.ac.jp

また、ワークショップ「地場産業を科学する」では、九州から発信するさまざまな地域産業の中から3つの産業技術を紹介した。本稿ではそのうちの一つ「バイオ技術を活用した育種酵母による新たな酒造りを目指して」と題してご講演いただいた九州大学大学院の竹川薫先生の内容を紹介する。焼酎の風味に影響を与える成分の中で、焼酎に含まれるインドール含有量の違いによりもたらされる官能特性の差異が、焼酎の「コクや苦味」へ寄与することなどを科学的な視点から探究し、更なる高みを目指した新たな焼酎の開発に繋げる取り組みなど、お酒を飲

む、飲まないに関わりなく日本の伝統的な蒸留酒「焼酎」の奥深さとその繊細な風味の魅力について執筆いただいた。

以上、本稿に執筆いただいたどの講演内容も、目の前に起きている事象を分析し、的確に捉え、どう感じ、そこで何を心得、そして次に必要とすべきアクションは何か、改めて自身の日常に置き換えて物事を考える起点となる内容であると思われる。

本投稿における著者の利益相反：なし